

◆学習のねらい

いじめは、相手の心や体を傷付ける行為であることを理解させるとともに、いじめのない素敵な学級にするために自分に合ったよりよい解決方法を意思決定できるようにする。

◆評価

いじめは、相手の心や体を傷付ける行為であることを理解するとともに、いじめのない素敵な学級にするために自分に合ったよりよい解決方法を意思決定している。

◆教育課程における位置付け

特別活動

◆主な使用教材

- ・東京都教育委員会『令和2年度 東京都道徳教育教材集 小学校1・2年生版 心あかるく』
- ・イラスト資料

展開例

	学習活動（・児童の発言例）	○指導上の留意点
導入 10分	<p>1 学級の良いところを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気に挨拶している。 ・友達と仲良くできる。 ・給食や掃除当番をみんなで頑張っている。 <p>2 本時の学習を知る。</p>	<p>○ 学級の良さを具体的に考えられるように、『心あかるく』の108、109ページの写真を提示するなどして、参考にできるようにする。</p>
	いじめのない、すてきな学級にするために、どのようなことをすればよいか考えよう。	
	<p>3 いじめに関するイラストを見て、考えたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめはいけないことだ。 ・仕返しをするのはいけない。 ・笑っている子もいけない。 ・先生や大人に相談した方がよい。 	<p>○ いじめのイラストを掲示する。</p> <p>○ いじめている子、いじめられている子のほかに、はやし立てたり笑ったりしている子、見ている子がいることを知らせる。</p> <p>○ いじめが、相手の心や身体を傷付ける重大な行為であることに気付かせる。</p>
展開 25分	<p>4 自分の周りでいじめが起こったときどうするか考える。</p> <p>◇ 自分のまわりでいじめが起きたら、どうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意する。 ・先生に言う。 <p>5 いじめのない素敵な学級にするためのルールを考える。</p> <p>◇ いじめのないすてきな学級にするために、一人一人がどのようなことをすればよいですか。</p> <p>(1) 個人で考える。</p> <p>(2) 4人程度のグループで、それぞれ考えたルールを発表し合う。</p> <p>(3) グループごとに、出されたルールをまとめ、学級全体に発表する。</p>	<p>○ 身近な大人に伝えることが大事であることを知らせる。</p> <p>○ 幾つか考えが出された後、同じような気持ちになったことはないかを確認しながら板書する。</p> <p>○ 互いのよさを認め合うことが大切であることを確認させる。</p>
まとめ 10分	<p>6 いじめのないすてきな学級をつくるために、自分が行動することを決め、『心あかるく』の109ページに、「学級をもっとすてきにするために、どんなことができるか」の欄に書く。</p>	<p>○ これからすてきな学級にするためにしていきいたいことという観点で自分のすることを決めさせる。無理に一つに絞ることはせず、複数あってもよい。</p> <p>○ 帰りの会などで、自分の決めた行動ができていないかについて振り返らせる。</p>

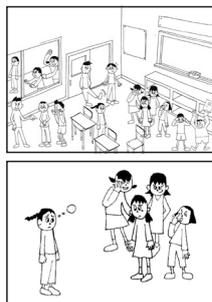
板書例

いじめのない、すてきな学きゆうにするためにどのようなことをすればよいか考えよう。

学きゆうのよいところ

- ・げん気にあいさつしている。
- ・ともだちとなかよくできる。
- ・きゆうしよくやそうじとうばんを、みんなでがんばっている。

イラストを見てかんがえたこと



- ・いじめはいけないことだ。
- ・しかえしをするのはいけない。
- ・わらっている子もいけない。
- ・先生やおとなにそうだんしたほうがよい。

○じぶんのまわりでいじめがおきたら

- ・ちゅういする。
- ・先生にいう。
- ・みぢかなおとなにいうことだ。

○いじめのないすてきな学きゆうにするためにどのようなことをすればよいか。

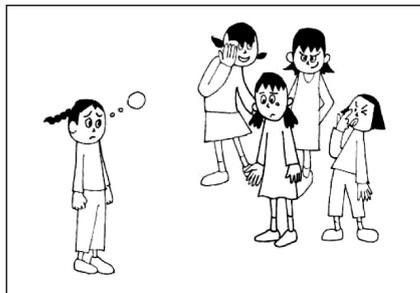
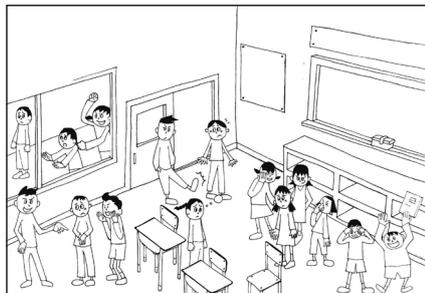
- ・みんなでなかよくあそぶ。
- ・たがいのよさをみとめあう。

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 25分	<p>1 「授業中」、「休み時間」、「掃除の時間」のそれぞれの場面についてグループごとに分担し、担当する「場面」について、いじめのない素敵な学級をつくるために、どのようなことをすればよいかグループで話し合う。</p> <p>◇ 分担した場面について、いじめのない素敵な学級にするために、一人一人がどのようなことをすればよいか話し合みましょう。</p> <p>(例)「授業中」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の話をうなずきながら聞く。 <p>(例)「休み時間」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誰とでも仲良く遊ぶ。 <p>(例)「掃除の時間」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなで協力してそうじする。 <p>2 話し合ったことをグループごとに発表する。</p> <p>◇ 話し合ったことについて発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 決まりや約束を守ること、自分もみんなも気持ち良く生活することができるということに気付かせる。 ○ 一部の行動を戒めるという視点ではなく、みんながより良く生活できるという視点で考えさせる。

資料等

○いじめのイラスト (例)



規範意識の醸成

◆学習のねらい

いじめが起きたときにどうすればよいか考えることを通して、いじめをしない、させない、見過ごさない、見て見ぬ振りをしない態度を育てる。

◆評価

いじめが起きたときにどうすればよいか考えることを通して、自分たちで決まりをつくって守ろうとする意識を高めている。

◆教育課程における位置付け

特別活動

◆主な使用教材

- ・DVD『STOP!いじめ あなたは大丈夫? 児童・生徒指導編 小学校編』(16分)
- ・東京都教育委員会『令和2年度 東京都道徳教育教材集 小学校3・4年生版 心しなやかに』

展開例

	学習活動（・児童の発言例）	○指導上の留意点
導入 10分	1 いじめに関するDVDの一部を視聴して、自分の考えをもち、発表する。 ◇ この事例では、どうすればよかったか。 ◇ DVDの事例について、実際に遭遇した場合、自分ならどうするか。 2 本時の学習を知る。	○ 『STOP!いじめ あなたは大丈夫?』のはじめの5分間の事例から、いじめる立場、いじめられる立場、見ている立場の気持ちを考えさせるようにする。 ○ いじめの未然防止に関わる学級の決まりについて、考える必要性に気付かせる。
みんなで、いじめのない、すてきな学級にするために、決まりを見直そう。		
展開 25分	3 自分たちの学校や学年、学級等のいじめに関する決まりやルールについて確認し、自分たちの生活を振り返る。 4 決まりやルールを守ることの良さや、守るために必要なことについて話し合う。	○ 相手や周りの人の立場に立ち、より良い人間関係を築くことの大切さに気付かせるように声掛けを行う。
まとめ 10分	5 学級の決まりを守るために、今後の自分の生活について見通しをもち、考えたことを木の葉の形の画用紙に書き、模造紙に貼る。	○ 決まりを守り、いじめを防ぐために、自分が取り組むことについて考えさせる。 ○ 授業後も、決まりやルールを守れているかについて声掛けをする。

板書例

みんなで、いじめのない、すてきな学級にするために、決まりを見直そう。

DVDを見て考えたこと

- どうすればよかったか。
- 自分だったら、どうするか。

□年□組の決まり

- ・ 相手が嫌がることをしたり、言ったりしない。
- ・ 誰とでも仲良く遊ぶ。
- ・ 先生の話をしっかり聞く。

決まりを守ると、どんなクラスになる?

- ・ いじめがなくなり、みんなが楽しく過ごせる。
- ・ 友達が増える。

これからも決まりを守っていくために、どんなことが必要か。

- ・ 相手のことを考える。
- ・ 本心に言っつてよいのかを考える。
- ・ 相手の気持ちをよく聞く。
- ・ 自分の気持ちを伝える。

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 25分	1 『心しなやかに』の100ページを読み、「学校」、「家庭」、「地域」における約束や決まりについて考えるとともに、約束や決まりがある理由についても考える。	○ 時間がある場合は「約束や決まりが無かったらどうなるのか。」についても考えさせる。
	2 ペアになり、1で考えたことについて意見を交流する。	
	3 『心しなやかに』の101ページを読み、みんながもっと気持ち良く過ごすための決まりやマナー、それらが必要な場所や場面等について考える。	○ 「みんながもっと気持ち良く過ごすために」という視点を押さえながら考えさせる。
	4 グループになり、3で考えたことについて話し合い、まとめる。	○ 自分たちが必要とする決まりやルールを中心にまとめさせる。 ○ 授業後も、決まりやルールを守れているかについて声掛けをする。

資料等

人権教育ビデオ教材等の貸出について

東京都教職員研修センターでは、「人権教育資料センター」を設置しています。

当資料センターでは、同和問題をはじめ様々な人権課題に関わるビデオ教材、DVD等を多数所蔵し、貸出を行っています。

人権教育の推進・啓発のため、授業や教職員・保護者等対象の研究会・研修会等の機会に、当資料センターの人権教育ビデオ教材等を御活用ください。

東京都教職員研修センター Web ページから、「人権教育資料センター」を選択してください。
「貸出用ビデオ一覧」、「借用書」及び「使用状況報告書」等をダウンロードしてお使いいただけます。

☆ビデオ教材等の詳細についてのお問合せや、御不明な点は、右記担当まで御連絡ください。

東京都教職員研修センター 研修部 教育開発課
人権教育担当
(住 所) 〒113-0033 文京区本郷1-3-3
(電 話) 03-5802-0306 (直通)

◆学習のねらい

考え方や感じ方は人によって違っており、その違いを認めることが大切であることや、SNSをはじめとするインターネット上では「誤解」が生まれやすいことを理解させ、考えや気持ちを伝える方法を考えさせる。

◆評価

感じ方や考え方の違いを踏まえて、自分の考えや気持ちを相手に伝える方法を考えている。

◆教育課程における位置付け

特別活動

※社会科における「情報に関する学習」との関連を図ることができる。

◆主な使用教材

- ・東京都教育委員会『SNS東京ルール』（平成31年4月改訂）
- ・東京都教育委員会『SNS東京ノート3（小学校5、6年用）』（令和2年度版）

展開例

	学習活動（・児童の発言例）	○指導上の留意点
導入 10分	1 コミュニケーションの手段には、どのようなものがあるか考える。	○ 対面での会話、手紙、電話、メール、SNS等、様々なコミュニケーションの手段があることを押さえる。
	自分の考えや気持ちを上手に相手に伝える方法を考えよう。	
展開 30分	2 自分が言われて嫌な言葉について考え、話し合う。 五つの中から自分が言われて嫌な言葉を選び、その理由を考える。（『SNS東京ノート3』P4上段） 考えを交流する。	○ 同じ言葉でも肯定的に捉える人と否定的に捉える人がいることを理解させる。 ○ 直接会話した時と、文字で伝えられた時の感じ方の違いについても気付かせる。
	3 自分がされて嫌なことについて考え、話し合う。 五つの事柄から自分がされて嫌な順に並べ、一番嫌なことと、一番嫌でないことを選ぶ。（『SNS東京ノート3』P4下段）	○ 同じことでも人によって捉え方が違うが、その違いを認め合うことが大切であるということに気付かせる。
	4 相手の感情を読み取ることの大切さに気付く。 『SNS東京ノート3』P5に取り組む。	○ 対面して会話することと比較し、SNSを介すると、相手の意図や感情を読み取りづらくなることに気付かせる。
	5 友達と話し合っ「マイSNS東京ルール」を作成する。	○ 自分と他者の違いを踏まえて、SNSを利用するときに、どのようなことに気を付けるかについて、自分の考えを書かせる。
まとめ 5分	6 「SNS東京ルール」及び「SNS学校ルール」を確認し、本時の学習で学んだことをまとめる。 『SNS東京ノート3』P5に取り組む。	○ 授業後、『SNS東京ノート3』を持ち帰り、保護者からのコメントをもらうことで、保護者の意識も高められるようにする。

板書例

SNS東京ルール

- ① スマホやゲームの一日の合計利用時間、使わない時間帯・場所を決めよう。
- ② 必ずフィルタリングを付け、パスワードを設定しよう。
- ③ 送信前には、誰が見るか、見た人がどのような気持ちになるか考えて読み返そう。
- ④ 個人情報を知ったり、知らない人と会ったり、自撮り画像を送ったりしない。
- ⑤ 写真・動画を許可なく撮影・掲載したり、拡散させたりしない。

- 自分の考えや気持ちを上手に相手に伝える方法について考えよう。
- コミュニケーションの手段
 - ・ 対面での会話
 - ・ メール
 - ・ SNS
 - ・ 電話
- 自分が言われて嫌な言葉
 - ・ 人によって嫌な言葉が違う
- 自分がされて嫌なこと
- 相手の感情を読み取ることの大切さ

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 25分	<ol style="list-style-type: none"> 1 教師が例示するほかの言葉について、自分ならどう感じるかを考え、全体で話し合う。 (例)「まじめだね。」「一生懸命だね。」「個性的だね。」「マイペースだね。」等 2 グループで、相手の顔が見えないSNSをはじめとするインターネットにおいて、自分の考えや気持ちを上手に相手に伝える方法について話し合う。 3 グループで話し合った内容をまとめ、全体で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 直接会話した時と、文字で伝えられた時の感じ方の違いについても気付かせる。 ○ 同じ言葉でも前向きに捉える人と否定的に捉える人がいることを理解させる。 ○ 「相手の顔が見えない」、「情報が広がりやすい」等のSNSをはじめとするインターネットの特性を踏まえた上で話し合わせる。 ○ 相手に誤解を与えない表現にするには、どうすれば良いのか考えさせる。

資料等

「SNS東京ルール」(平成31年4月改訂版)

- ① スマホやゲームの一日の合計利用時間、使わない時間帯・場所を決めよう。
- ② 必ずフィルタリングを付け、パスワードを設定しよう。
- ③ 送信前には、誰が見るか、見た人がどのような気持ちになるか考えて読み返そう。
- ④ 個人情報を知ったり、知らない人と会ったり、自撮り画像を送ったりしない。
- ⑤ 写真・動画を許可なく撮影・掲載したり、拡散させたりしない。



◆学習のねらい

SNSの上手な使い方について学び、自分たちの身を守るためのルールを考え、行動できるようにさせ、インターネット上での規範意識を育む。

◆評価

SNSの利用に際してのトラブルなどを防止するために必要な「行動宣言」を考えることを通して、今後、「行動宣言」を守って行動しようとする気持ちをもっている。

◆教育課程における位置付け

特別活動

※社会科の公民的分野における「現代社会の特色（情報化社会）」や技術・家庭科の技術分野における「情報モラルに関する学習」との関連を図ることができる。

◆主な使用教材

- ・東京都教育委員会『SNS東京ルール』(平成31年4月改訂)
- ・東京都教育委員会『SNS東京ノート4』(中学生用)(令和2年度版)
- ・「SNS学校ルール (SNS家庭ルール)」
- ・「考えよう!いじめ・SNS@Tokyo」ウェブサイト

展開例

	学習活動（・生徒の発言例）	○指導上の留意点
導入 5分	<p>1 『SNS東京ノート4』の4ページ「自分と相手との違い」や8ページ「こんなつもりじゃなかったのに」を参考に、インターネットの利用状況を振り返り、日常生活で感じたこと（メリットやデメリット）を発表する。</p> <p>◇ 自分の経験だけでなく、友達から聞いた話や『SNS東京ノート』等も参考にして、インターネットを利用するときのメリットやデメリットを考えてみましょう。</p> <p>2 本時の学習を知る。</p>	<p>○ 自分専用の携帯電話やスマートフォン等の情報端末を持っていることが当然であるような指導をしないことに心掛けつつ、情報社会において必要なスキルや心構えの学習であることを伝える。</p> <p>○ 自分の経験だけに基づかず、携帯電話やスマートフォン等を持っている生徒と持っていない生徒のそれぞれの立場から考えさせる。</p>
SNSの上手な使い方を考え、「SNS学校ルール」を守るための学級の「行動宣言」を作ろう。		
展開Ⅰ 15分	<p>3 「考えよう!いじめ・SNS@Tokyo」ウェブページの「グループから外されそうになって…」や「匿名でつぶやいていたら…」のストーリーを読み、感じたことを発表する。</p> <p>◇ 同じようなトラブルに遭いそうになったり、危ないと思ったり、聞いたりしたことはありますか。また、なぜこうなったのか、どうすれば自分を守れると思いますか。</p>	<p>○ 「考えよう!いじめ・SNS@Tokyo」ウェブサイトについては、63ページの【資料等】を参照する。</p> <p>○ ネット上のトラブルについては『SNS東京ノート4』の「ネットの特性」も併せて読むことで理解を深めさせる。</p> <p>○ ネット上のトラブルをはじめ、様々な視点から、いじめについて考えさせる。</p>
展開Ⅱ 25分	<p>4 SNSの利用に際してのトラブルなどを防止又は解決するための「行動宣言」を考える。</p> <p>(1) 個人で考える。</p> <p>(2) 4人程度のグループで、それぞれ考えた「行動宣言」を発表し合う。</p> <p>(3) グループごとに、出し合った「行動宣言」をまとめ、学級全体に発表する。</p> <p>5 学級での「行動宣言」を決める。</p>	<p>○ ウェブページ（アプリケーション）の事例を基に、学級の状況や課題等を踏まえた「行動宣言」を短冊や付箋紙に書き、話し合う。</p> <p>○ グループや全体で話し合う際に、短冊や付箋紙を「努力するポイント」と「してはいけないポイント」等に分類させ、考えを整理し、まとめやすくする。</p> <p>○ 他者の意見について、否定するのではなく、こうした考え方もあるということを確認合えるようにする。</p>
まとめ 5分	<p>6 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○ SNS東京ルールやSNS学校ルールを掲示し、SNSの上手な使い方を振り返り、今後も継続して考え、その時々々に解決していく問題であることを伝える。</p>

板書例

SNSの上手な使い方を考え、学級の「行動宣言」を作ろう。

○インターネットの利用状況

- ・友達とのメッセージのやりとりを終えることができず、スマートフォンをずっと使ってしまう。
- ・ゲーム機の通信で友達と夜遅くまで会話している。
- ・相手の気持ちを考えずに、メールを送ってしまった。
- ・親に、スマートフォンを使い方のルールを決められている。
- ・携帯電話やスマートフォンを持っていないので、友達とすぐ連絡を取りたいときに不便ことがある。

○この学級のための「行動宣言」とは？
(努力するポイント)

- ・一日の利用時間と終了時刻を決める。
- ・やるべきことをしてからネットを使うようにする。
- ・フィルタリングを使う。
- ・文字だけのコミュニケーションであることに気を付ける。
- ・(してはいけないポイント)
- ・相手の気持ちを考えずにメール等を送らない。
- ・間違った捉え方をされたり、言いたいことが伝わらなかったりすることがないようにする。
- ・自分や他者の個人情報を書き載せないようにする。

○「行動宣言」をみんなで守っていきましょう。

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開Ⅱ 25分	<p>1 SNSの利用状況や課題等を踏まえ、「SNS東京ノート4」の20ページ「家庭のルールを考えよう」を活用し、「SNS家庭ルール」を見直す。</p> <p>(1) 個人で取り組んでいる点や改善すべき点を考える。</p> <p>(2) (1) で考えたことをグループ内で発表し、他の生徒は、取組等について助言する。</p> <p>(3) グループのメンバーからももらった助言を基に、今後改善すべき点をまとめる。</p> <p>2 「SNS家庭ルール」の改善案を考える。</p> <p>3 本時の話し合いを通して、学んだことをワークシートに記入する。</p>	<p>○ 以前考えた「SNS家庭ルール」が、SNSの利用に際してのトラブル防止策として、実効性があるのかという視点で、現在守ることができている点や改善すべき点等を考えさせる。</p> <p>○ 自主的・自発的な取組になるよう、また、実現できる、実効性のあるルールになるよう指導・助言する。</p> <p>○ 「SNS家庭ルール」の改善案について、家庭に報告することについても助言する。</p>

資料等

「考えよう！いじめ・SNS@Tokyo」ウェブページ及びスマートフォン用アプリケーションについて

上巻『学校の取組編』にも示されているように、子供が、身近な情報通信機器等を用いて、いじめの被害者にも加害者にもならないようにするとともに、いじめを受けた場合に大人に相談しようとする気持ちを後押しするために、独自にウェブページとスマートフォン用のアプリケーションを作成しました。

「考えよう！いじめ・SNS@Tokyo」スマートフォン用アプリケーションの概要

こころ空模様チェック



こころストーリー



スマートフォン用アプリケーションをインストールできない環境への対応として、アプリケーションと同様の内容を体験することができるウェブページを作成しています。

ウェブページの利用及びスマートフォン用アプリケーションのダウンロードは、以下のアドレスのページから行うことができます。

【ウェブページアドレス】
<http://www.ijime.metro.tokyo.jp>

◆学習のねらい

SNSを介したトラブルやいじめについて知り、加害者にも被害者にもならないための防止策や、対処方法を身に付けさせ、インターネット上での規範意識を育む。

◆評価

SNS上で起こり得るトラブルやいじめの実態について理解し、それらを防止する方法や起きてしまった時の解決方法等について考えている。

◆教育課程における位置付け

特別活動

※人間と社会における「第6章 ネット時代」や共通教科情報科における「情報モラルに関する学習」との関連を図ることができる。

◆主な使用教材

- ・東京都教育委員会『SNS東京ノート5（高等学校用）』
- ・模造紙（タブレットパソコン等のICT機器の活用も考えられる）
- ・DVD『STOP！ いじめ あなたは大丈夫？』児童・生徒指導編 高等学校編（ネット上のいじめ）

展開例

	学習活動（・生徒の発言例）	○指導上の留意点
導入 5分	1 自らのSNSの利用状況について振り返り、2人組で話し合う。	○ 生徒の日常生活でのSNSの利用状況や、利用における課題、トラブル等について話し合わせる。 ○ SNSによるトラブルだけでなく、SNSの利便性についても取り上げる。
	SNS利用上のトラブルや、いじめに対する防止策・対処法を考えよう。	
展開 40分	2 SNS利用上のトラブルやいじめの具体例を挙げ、防止策や対処法を考える。 (1) 自分の経験や聞いたこと等をワークシートに記入する。 (2) 4人程度のグループになり、自分の経験や聞いたことなどを基に、具体例を模造紙に書く。 (3) 具体例について考え、問題点とその防止策や対処法を付箋紙に書き、模造紙に貼る。 (4) グループをローテーションし、ほかのグループが考えた具体例に対して、(3)の作業を行う。 (5) グループごとに、出された問題点、その防止策、対処方法をまとめ、発表の準備を行う。 (6) グループごとに学級全体で発表する。	○ インターネットの特性を理解させ、相手の気持ちを考えることの大切さや、悪質な誹謗中傷などのいじめは犯罪となる可能性があることなどについて考えさせる。 ○ 問題点とその防止策や対処法を書き込む際には、色別の付箋紙を利用する。 例：問題点（赤）、防止策（青）、対処法（黄） ○ 発表の際はグループのメンバー全員が関わる発表となるよう指導する。 ○ 各グループから出た意見を基に、学習のポイントを板書し、全体でまとめる。
まとめ 5分	3 学習を通して気付いたこと、他の人の考えなどから学んだことをワークシートにまとめる。	○ SNS上のいじめも、相手の心や体を傷付ける重大な行為であり、犯罪につながる行為であることを理解させる。

板書例

SNS利用上のトラブルや、いじめに対する防止策・対処法を考えよう

○SNS利用上の課題やトラブルについて、考えよう。

- ・個人情報の掲載
- ・不適切な書き込み
- ・個人に対する攻撃
- ・安易な書き込みとその影響

○SNS利用上のトラブルやいじめの具体例を挙げよう。

- ・勝手に個人情報を載せられた例
- ・グループを外されて人間関係がこじれた例
- ・自分の知らない所で悪口を書かれていた例
- ・知らない人とのやり取りでトラブルになった例

○問題点とその防止策・対処法を考えよう。

- ・簡単に個人情報や画像を公開しない。
- ・軽い気持ちで書き込みしない。
- ・誤解を生む表現を避ける。
- ・相手がどのような気持ちになるか考える。

〈SNS利用上のポイント〉

- ・相手の気持ちを考える。
- ・インターネットの特性を理解する。
- ・情報はすぐに、不特定多数に拡散され、削除が困難である。
- ・悪質な誹謗中傷や許可を得ない画像の使用等、犯罪となることもある。

※トラブルに遭ったり見付けたりしたら、保護者や教員、相談窓口等に迷わず相談する。

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 40分	<p>1 ネットいじめに関するDVDを視聴し、いじめの被害者の気持ちを考える。</p> <p>(1) 『STOP!いじめ あなたは大丈夫?』(高等学校編)の初めの5分30秒間を視聴した時点で、映像を止め、いじめを受けている主人公の気持ちを考える。</p> <p>(2) 自分の経験や聞いたことなどをワークシートに記入する。</p> <p>(3) ペアになり、自分が考えた気持ちを話し合う。</p> <p>2 DVDの事例における問題点や、第三者としての行動や防止策・対処方法を考える。</p> <p>(1) もし自分が第三者の立場で、事例のメールを受け取ったら、どのように行動するのか考える。</p> <p>(2) グループで考えを交流し、SNS利用上のトラブルやいじめに対する防止策や対処方法を考える。</p> <p>3 グループで考えたSNS利用上のトラブルやいじめに対する防止策や対処方法を学級全体で共有する。</p> <p>4 『STOP!いじめ あなたは大丈夫?』(高等学校編)の残りの映像を視聴し、いじめ問題への理解を深める。</p>	<p>○ DVD『STOP!いじめ あなたは大丈夫?』(高等学校編)の初めの5分30秒間(ネット上のいじめ)を視聴させる。</p> <p>○ DVD『STOP!いじめ あなたは大丈夫?』(高等学校編)の10分30秒間(ネット上のいじめ)まで視聴させる。</p> <p>○ 実際に生徒が気を付けていることを挙げさせるようにする。</p> <p>○ DVD『STOP!いじめ あなたは大丈夫?』(高等学校編)を最後まで視聴させる。</p>

資料等

インターネットによるトラブルの相談窓口

○ネット・スマホのなやみを解決「こたエール」 電話：0120-1-78302

〈電話相談〉月曜日～土曜日 15時～21時 ※祝日除く

〈LINE相談〉月曜日～土曜日 15時～21時 (受付は20時30分まで) ※祝日除く

〈メール相談〉(24時間いつでも受付中) https://www.tokyohelpdesk.metro.tokyo.lg.jp/contact/net_soudan.cgi

○東京都教育相談センター「東京都いじめ相談ホットライン」 電話：0120-53-8288 (24時間対応・通話無料)

◆学習のねらい

いじめをなくすために、自分ができることを考えるを通して、いじめをしない、させない、見過ごさない、見て見ぬ振りをしないための態度を育てる。

◆評価

いじめについて自分で考え、いじめをなくすために自分ができることをしようとする意識を高めている。

※実施の時期や学年によっては、キャリア教育と結び付け、社会に出たときに、いじめに対して、どのように対応していくのかを考えることをねらいにしてもよい。

◆教育課程における位置付け

特別活動

◆主な使用教材

- ・DVD『STOP!いじめ あなたは大丈夫?』(児童・生徒指導編 中学校編)
- ・ワークシート

展開例

	学習活動（・児童・生徒の発言例）	○指導上の留意点
導入	<p>1 居心地の良い学級とはどのような学級であるかを発表する。</p> <p>◇「居心地が良いクラス」とは、どんな学級ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思ったことを発言できる。 ・ お互いを認め合える。 ・ 自分の良いところが生かせる、伸ばせる。 <p>2 本時の学習を知る。</p>	<p>○ 「居心地の良い学級」とは、学級にいることによって、互いを認め合い、自分の良いところが生かせる、伸ばせる学級であることを確認する。</p>
いじめられたり、その場面に出会ったりしたときの対応を考えよう。		
展開	<p>3 【DVD視聴】いじめについて考える（視聴5分）。視聴後、感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どうして、いじめられるのか分からない。 ・ 友達だから、嫌とは言えない。 ・ 遊びと同じ感覚でやっている。 <p>4 【DVD視聴】いじめられたとき、その場面に出会ったときに、どのようにすれば良いかを考え、互いの意見を聞く（視聴5分）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いじめられていることを先生に相談する。 ・ いじめられていることを親に話す。 ・ いじめられている人の相談に乗る。 ・ いじめの相談は、必ず大人にする。 	<p>○ DVD『STOP!いじめ あなたは大丈夫?』のはじめの5分間の事例（かばんを持たせる、かばんを蹴る）を視聴させ、いじめられる側の気持ち、いじめる行為について考えさせる。ワークシートを活用して感想を引き出す。</p> <p>○ DVD『STOP!いじめ あなたは大丈夫?』の続きを視聴させ、いじめへの対応について考えさせる。ワークシートを活用して感想を引き出す。</p>
まとめ	<p>5 振り返りを行う。</p> <p>(1) 【DVD視聴】続きから最後まで視聴する。</p> <p>(2) 今後、いじめられたり、その場面に出会ったりしたときにすること、自分ができることを確認する。</p>	<p>○ これまでの学習を振り返らせ、自分が具体的にできることをワークシート等に記入していることを確認する。</p>

いじめをしない、させない、見過ごさないための意識の醸成

互いの個性の理解

望ましい人間関係の構築

規範意識の醸成

教員研修プログラム

いじめ問題への対応事例

保護者プログラム

地域プログラム

板書例

いじめられたり、その場面に会ったりしたときの対応を考えよう

○居心地の良い学級とは

- ・思ったことを発言できる。
- ・助け合える。

○DVDを見て思ったこと

- ・どうしていじめられるのか分からない。
- ・友達だから、いやとは言えない。
- ・遊びと同じ感覚でやっている。

○いじめられたとき、その場面に会ったときに、どのようにすればよいか。

- ・いじめられていることを親に話す。
- ・いじめられている人の相談に乗る。

○活動の振り返り

いじめられたり、その場面に会ったりしたときにすること、自分ができること

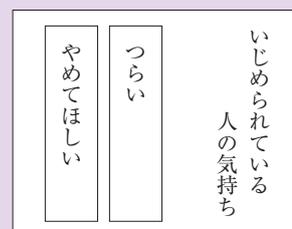
資料等

展開の工夫① 短冊を活用してまとめる。

〈板書例〉

ワークシート等を用いて個人の考えをまとめる方法のほかに、グループワークによって考えをまとめていく方法もあります。

グループでまとめた意見や考えを大きめの短冊にまとめ、発問ごとに黒板に掲示していくと、グループの意見交流や考えのまとめなど、全体での共有を効果的に行うことができます。



展開の工夫② 具体的な内容を選択肢で示す。

発達の段階によって、ほかの人の立場になって考えたり、気持ちを考えたりすることが苦手な児童・生徒もいます。そのような場合は発問を、「いじめられている人は、どんな気持ちですか。」ではなく、「いじめられている人を見たらどうしますか。」や「いじめられたときどうしますか。」とし、さらにその時の具体的な行動を選択肢で示します。

ワークシートでの取組や、選択肢を大きなカードで示し、そこに集まるなど周囲の人の様子を見えるようにする工夫も考えられます。

〈例〉「いじめられている人を見たらどうしますか。」

- | | |
|---------------------|-------------------|
| ア 家の人や先生など、大人に知らせる。 | イ 助けるために、いじめを止める。 |
| ウ その場から逃げる。 | エ 何もせず、だまって見ている。 |

展開の工夫③ 演じることを通して理解を促す。

発達の段階によって、映像から情報を理解することが難しい場合、演じることが理解の助けになることがあります。

具体的には、実際に演じてみるロールプレイングを行ったり、モデルとして教員や学級の代表が演じるのを見たりするという方法が考えられます。自分自身が体験することで理解できることや、身近な人が演じることで実感しやすくなることが期待できます。

